人権意識と理念が問われる行政姿勢、改めて問う!

障がい児放課後支援の充実を

やまぐち　まさこ
山口 正子
健康福祉常任委員

障害をかかえた就学児童の多くは、民間事業者が経営する放課後デイサービス（放課後デイ）を利用しています。ある放課後デイでは児童や保護者との面談も行わず療育計画を作成したり、スタッフの残業代未払いや労働契約違反の実態が分かりました。今年1月市に改善を求めその後の状況について質問したところ、「69ヵ所ある放課後デイ事業所を1年に10ヵ所、巡回している。事業所への指導・監督は千葉県の権限であり、県にも適切な指導を要請した」と答弁がありました。

1年に10ヵ所の巡回では、1つの放課後デイには7年に1回であり、巡回の回数を増やして不十分な支援内容の改善をと求めました。

会計年度任用職員の賃金・処遇の改善を

しまむら　しんいち
嶋村 新一
教育環境常任委員

「会計年度任用職員制度」は、「非正規職員の処遇改善を趣旨」として制度化したもので、今年4年目を迎えます。しかし、改善どころか、これまでよりも悪化したという声が現場から多く上がっています。市では全職員数のうち非正規職員が占める割合は4割に達しています。
そこで、賃金や福利厚生、共済制度でも正規職員との待遇の均等を図ることを求めました。

市では5年経過で再公募を実施する予定です。5年目での雇止めなどがないようにこれからも市へ求めていきます。

「子どもの最善の利益」の実践で真の「子育て日本一」へ!

宇津野　ふみゆき
うつの 史行
総務財務常任委員

松戸市で発覚した小規模保育園の虐待問題を受け、市は再発防止として園長・施設長への研修強化を打ち出しました。しかしそれだけで十分なのでしょうか。

市長は「早く安くできる」と小規模園をどんどんつくり「子育てに便利な市」をアピールしています。保育園や幼稚園では「子どもの人権の擁護、虐待の防止等のため、責任者を設置」することが市の条例で義務化されています。しかし小規模園は数を増やしやすくするため義務化の対象外とし、責任者不在の園がいくつもつくられました。

「早さ・安さ・便利さ」は子どもたちにとっての「最善の利益」ではありません。「まるで鳥小屋」と報道された学童クラブのすし詰め問題なども含め「共働き子育て日本一」の裏に隠された子どもの実態は悲惨です。いま一度、行政も含めた抜本的な意識改革が必要です。

矢切の耕地に物流倉庫はいらない!

農家・市民・行政が一体に松戸の農業を未来へ

2023年2月5日撮影　同7月1日非耕作地　産廃施設　物流施設予定地　公共施設

外環道開通を契機に物流施設計画が

有名な「矢切の渡し」周辺に100haもの広大な「矢切の耕地」が広がり、矢切ネギやキャベツ、米など様々な農作物が作られています。またカワセミなどの多様な野鳥も見られ、都市で生物多様性を実感できる貴重な地域となっています。また斜面林と一体に素晴らしい景観を生み出しています。

しかし外環道松戸インターの計画を契機に物流施設の計画が持ち上がり、農家を中心に100戸の地権者すべてが土地を不動産業者に売る仮契約をしています。

「市街化調整区域の検討」で「自然的土地利用」から「開発」へ

現在、市は都市計画審議会で、「市街化調整区域活用の必要性」をあげ、その「都市的土地利用」を検討するとして矢切地域も対象となっています。

市は「耕作放棄地の増加」、「企業の開発意欲」などを理由に矢切の開発の方針を前面に押し出しています。しかし「市街化調整区域」は「自然的土地利用」が原則です。「耕作放棄地」の増加は農政の無策、農業委員会の機能不全が引き起こした結果であり、それを根拠に開発を進めるのは本末転倒です。さらにこの地域は全域が洪水浸水地域であり開発の抑制が基本です。

「まちづくり委員会」からも「保全整備計画つくれ」の答申が

2019年3月には有識者会議の「松戸駅周辺まちづくり委員会」からも「矢切の耕地」を守るための「保全整備計画」を策定することを求める答申が出されています。

しかし市はいまだ計画を策定していません。「自然的土地利用」の原則と答申にのっとり、「保全整備計画」を早急に策定し、矢切の耕地全体を保全すべきです。

水田は利用集積をすすめ、市民農園など行政と市民が一体に保全を

農家の高齢化、後継者不足は進んでいます。また物流倉庫の計画以降、農地が高く売れるかもと期待が高まり、農地の売買や貸し借りが以前ほど行われなくなりました。

実際に、物流施設予定地は計画以降ほとんど耕作されていません。（上図参照）しかし「耕作されていない水田を全て引き受け米を作りたい」という意欲のある農家もいます。

行政が農地銀行などで積極的に支援をすることで農地の集積を進め、またすでにある市民農園など多様な方法で農地としての利用を促し、未来に継承することが気候変動、防災、生物多様性保全などにも多大な貢献となります。一時の利益のために「松戸のたからである矢切の耕地」が失われることがないよう、市にもまずは保全の姿勢を示すよう厳しく求めました。

かずえ
ミール 計恵
建設経済常任委員

3月議会のおもな議案に対する各会派等の態度

あなたの気持ちにぴったりな会派・議員は?

6月議会（臨時議も）で審議された18の議案と意見書等に対して日本共産党は賛成14、反対4

主な審査結果一覧表 2023年6月議会
○賛成　×反対　欠：欠席

	会派	日本共産党				政実・社民				立民			公明党										市民クラブ														はじめの会						無所属			
	議員名	宇津野史行	山口正子	ミール計恵	嶋村新一	原裕二	DELI	工藤鈴子	増田薫	二階堂剛	関根ジロー	戸張友子	飯箸公明	伊東英一	岩瀬麻理	織原正幸	鈴木智明	高橋伸之	松尾尚	井出昌子	丹呉顕子	芦田満春	末松裕人	石井勇	深山能一	市川恵一	箕輪信矢	渋谷剛士	杉山由祥	鈴木大介	大谷茂範	大塚健児	西田善昭	大和山太郎	広瀬優斗	鴇野聡	石塚裕	岡本優子	田中睦生	柿沼光利	山中啓之	大橋博	中村典子	湯浅文	鴫原舞
財産の取得（市役所用地[5月臨時議会]）	議案	否決	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	×	×	×	※	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○	×	○
松戸競輪特別会計補正予算（第1回）	議案	可決	×	×	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
市税条例の一部を改正する条例の制定	議案	可決	×	×	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
不登校の公的対応を求める	意見書	不採択	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×		×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	○	×
「我が国の防衛力の抜本的な強化」等のために必要な財源の確保に関する特別措置法」の廃止を求める	意見書	不採択	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×		×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	○	×	×	○	×
GX脱炭素電源法の廃止を求める	意見書	不採択	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×		×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	○	×	×	○	○
マイナ保険証の運用の延期を求める	意見書	不採択	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×		×	×	×	×	×	×	○	○	○	○	○	○	×	×	○	○
インボイス制度の実施延期を求める	意見書	不採択	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×		×	×	×	×	×	×	○	○	○	○	○	○	×	×	○	○
同性間に限らないパートナーシップ制度の導入促進求める	意見書	採択	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	×	×	×		×	×	×	×	×	×	○	○	○	○	○	○	×	×	○	×
特別支援学校・学級等への教員等の適切な配置を求める	意見書	採択	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

政実：政策実現フォーラム　立民：立憲民主党　無：無所属　欠：欠席　※議長のため裁決に加わらない　敬称略

● あなたのご意見をお寄せください。電話、FAX、メールのあて先は表面にあります。●